

遊びをせむとや生まれけむ

50 行書体 / 字間ツメ

『梁塵秘抄』は平安時代末期、庶民の間で流行した「今様」を集めた歌謡集。自身も無類の芸能好きだった後白河法皇が、生涯をかけて編集しました。

引用歌の大意は「遊びをするために、戯れるために人は生まれてきたのだらうか。子供たちの歓声を聴いていると、自分まで楽しくなって、体が自然に動いてくる」。

そんな標準的な読みに対して、「遊び」「戯れ」を男女の交歓のことと取り、作者を「遊女」と推測して、そこに人の世の流転や哀感を見い出そうとする鑑賞もあります。

我が身 さへこそ

120 Q 行書体
字間ツメ / 行間95 H送り

遊びをせむとや生まれけむ

戯れせむとや生まれけむ

遊ぶ子どもの声聞けば

我が身さへこそ揺るがるれ

梁塵秘抄

16 Q 行書体 / 行間21 H送り

32 Q 太行書体 / 行間40 H送り

13 Q 行書体